ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。 題字:栢木寛照

えとす
平成30年 No.307 9月号

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

安倍総裁堂々と3選を果たす 議員票を圧倒的に獲得

石破氏党員票で善戦

自民党総裁の任期は3年である。安倍総裁の任期満了に伴い、総裁選挙が実施された。安倍一強といわれる現在の自民党内にあって、安倍首相に対抗馬として立候補することは勇気のいることである。選挙前から、色々な人の名前が挙がっていたが、最終的には安倍晋三総裁と石破茂元幹事長の2人の対決となった。安倍首相を推す派閥の数から見ても、安倍総裁の優勢は明らかであった。不利な情勢であっても敢えて石破氏は立候補を決意した。もし、安倍総裁以外に誰も手を挙げる人が居なかったらどうなったであろうか。選挙期間中テレビ、新聞は連日総裁選挙を大々的に報道した。自民党の存在感を改めて国民に示した。結果は予想通り、安倍総裁が国会議員票で石破氏を圧倒、3選を果たした。しかし、石破氏は党員投票で40%以上獲得して善戦、次期総裁への可能性を残した。

戦い終えて互いの健闘をたたえ合う安倍総裁と石破氏

恒心

★「争いは末節なり」とは史記の中の有名な言葉で、人生の根本は争わないことが一番大事だということだそうである。私が最初仕えた前尾繁三郎先生がよく口にした。宏池会の会長として総裁選挙に出馬すべきだと周囲から促されてもなかなか腰を上げなかったが、昭和43年11月の総裁選挙に出馬し、佐藤栄作氏、三木武夫氏と3人で争った。★一方、弱小派閥を率いて、万年反主流的立場であった三木武夫氏は「男は一度勝負する」と勝算のない総裁選挙に出馬し、大方の予想を裏切って、主流派宏池会の会長である前尾先生の票を上回り2位に滑り込んだ。★三木氏は捨て身の覚悟で、まさに背水の陣で戦いに挑んだ。明らかに相手陣営と分かっている国会議員に自ら電話を掛け、自分への支持を頼んだ。佐藤総裁からの禅譲を期待し、「争いは末節なり」を信条とする前尾先生には三木氏のような真似は出来なかった。★その時の前尾先生の総裁選挙への意気込みが不満だとして、宏池会の若手議員が反乱を起こして、前尾先生は宏池会の会長の椅子を大平正芳氏に譲ることとなった。今回の総裁選挙では、石破氏は負け覚悟で選挙に挑んだ。傍目からは無謀な戦いと見える。★一方、宏池会会長の岸田氏は、当初出馬の意欲を示していたが、安倍総裁からの禅譲を期待して、出馬を断念した。岸田氏は決断までに随分と頭を悩ましたと思うが、3年後、棚からぼた餅の結果となるのか。自民党の総裁交代劇で、話し合いで後継者が決まることは非常に珍しい。権謀術数が渦巻く政界では、常に戦いの意欲がなければ、権力者にはなれない感じがする。

1200人が総裁選挙所見発表会に参加
安倍、石破両候補熱弁を振るう

9月15日、自民党総裁選挙管理委員会の主催で「自民党総裁選挙」候補者所見発表演説会が、京都市で開催された。従来、所見発表は街頭演説の形式で行われたが、今回は夏の猛暑の反省と雨の心配を避けるために、屋内で開催することになった。今回会場となったのは、二条城前のANAホテル。3連休の初日、しかも12時という時間帯で参加者の数が心配されたが、開会前には用意した1200席ほぼ満席となり、会場を設営した京都府連関係者は胸をなでおろした。自民党総裁選挙の国民の関心は高く、新幹線京都駅でも安倍首相に握手を求めたり、記念写真を望む人が多かった。また、石破氏にも手を振る人、近寄って握手をする人があった。総裁選挙告示後、選挙選模様が連日、テレビ、新聞等で報道され、その影響の現れと思われる。

ANAホテルでの所見発表会

両候補の所見の要旨

安倍晋三候補
憲法改正で平和と独立を

アベノミクスによって、日本経済は成長し、雇用は大幅に改善し、税収も24兆円増えた。しかし、国民の中に格差があるのは事実である。これに光を与え、改善するのが政治の仕事である。地域社会を守り、食を支え、美しい田園風景を守り、国の基(もとい)である農林水産業は、絶対に守る。観光立国の政策によって、外国観光客は2800万になった。これからも観光客の受け入れのためにいろいろな手を打っていきたい。日本が国際社会で存在感を取り戻し、平和と繁栄のために、プーチン大統領、習近平主席とも会い、金正恩総書記と拉致問題について話をしたい。憲法改正に取り組む時が来た。自衛隊員が誇りを持って働ける憲法を持つべきである。

石破茂候補
地方創生に全力を尽くす

今日本は急速に人口減少社会に入っており、この現実を直視しなければならない。医療・年金・介護を支えるには、経済を強くする必要がある。大企業は史上空前の利益を上げ、株主は大金持ちになっているが、地方、中小企業、農林水産業には波及していない。それぞれが稼ぐ力を上げていくようにしなければならない。外国旅行者の落とす金は、95%が京都市内であり、府下は5%である。丹後地方の魅力をどう伸ばすか、そこに伸びしろがある。京都府・市、経済界はじめオール京都の力で文化庁の移転が実現した。地方創生のために、民間に本社の地方移転をお願いするのなら、もっと多くの政府機関を移転させなければならない。

京都府連での党員投票の結果
両候補予想外の接戦

党員投票は19日までに、各都道府県連が指定した郵便局に到着したものを有効とみなす。20日に党本部で国会議員の投票が実施されたが、それと併行して府連の開票作業が行われた。自民党京都府連所属の票数は、14,135票。府連選挙管理委員会の立ち合いの下で、票数の集計が行われた。開票の結果、安倍晋三候補と石破茂候補は6対4の比率となり、支援する国会議員の数から考えると、石破氏は良く健闘したといえる。詳細な結果は次の通りである。

京都府連の開票場

総裁選挙		平成24年	平成30年
選挙人数		10,105人	14,135人
投票総数		6,651票	8,909票
投票率		65.82%	63.03%
有効投票数		6,570票	8,880票
候補者	安倍晋三氏	2,425票	5,073票
	石破　茂氏	3,180票	3,807票

府市協調の一層の推進を
西脇知事、門川市長のトップ会談

政令都市京都市と京都府の府市協調は京都府全体の発展のため、さらに二重行政の解消のために、非常に重要なことである。29年度から、京都市消防学校と京都府消防学校を共同化して、市消防学校で、市消防局職員と府下自治体消防職員の初任化教育をしており、高く評価されている。知事、市長は府市協調の大事さを認識していても、現場をあずかる役人同士では、まだまだ協調が上手くいっていないのも事実である。特に、都市計画決定の権限が、道府県から政令指定都市に移譲され、政令指定都市と隣接市の道路は政令指定都市の市長が決断しなければ、整備が進まない。国道1、9号線のバイパスは長年の念願である。8月30日、西脇知事誕生後、初の府市トップ会談が行われ、多くの府市協調の課題について、意見が交わされた。当然、国道1、9号線の整備促進も取り上げられた。翌日の新聞各紙は、市長が消極的だと報道していたが、実際のところは、知事・市長とも前向きに考えているようである。知事・市長のバイパスに関する発言を見れば、明らかである。

京都市域と周辺都市ネットワーク整備

〈知事の発言〉

平成28年の研究会をさらにバージョンアップさせまして、国と京都市と有識者を入れた京都府の道路ネットワークの検討会、これは、京都単独ではなく、関西全域を含めた検討会を立ち上げます。そこでしっかりと議論をさせていただきたいと思います。

〈市長の発言〉

京都市と大津方面や亀岡方面を結ぶルートについては、災害に強い道路として、整備の緊急性が高い、これは、知事がおっしゃったとおりです。これらを、国、府、市、専門家を含めた「将来道路ネットワーク検討会」で議論し、1月にまとめていただきました。まとめでは、「厳しい財政状況を踏まえて、事業手法や受益に応じた費用負担の在り方に課題があり、今後の周辺地域のまちづくりや広域ネットワークとの連携強化の視点から、検討を進めていく必要がある」というようになっております。今回、京都府の方で範囲を広げ、議論をしていこうと、北部地域を含め広域的な視点が非常に大事ですので、我々も検討会に参画し、しっかり議論させていただきたいと思います。

二ノ湯事務所に米国からインターン生
日本の現実政治を学ぶ

日本の政治を勉強したいと、アメリカイリノイ州シカゴ大学1年生のホルブルック香里奈(かりな)(18才)さんが、6月20日から7月20日まで、東京の二ノ湯智事務所でインターン生として働いていた。香里奈さんは父親がアメリカ人、母親が京都出身の日本人で、日本語は日本人並に話し、ロシア語も出来る。将来はアメリカ国務省に入り、外交官として働きたい希望を持っている。香里奈さんは朝の8時には事務所に入り、夜は6～7時まで詰め、来客があれば、率先してお茶もサービスし、大変真面目な働きぶりだった。その香里奈さんが1か月余りの永田町でのインターンで感じたことを投稿してくれた。

『政治と聞けば何を考えるだろうか。私は政治に興味を持ちつつ、政治とはこういうものだ、という認識は特になかった。国会議員が国会で働いて、公園にチラシを貼って、テレビに出て会見を開く、などの簡単な知識しかなかった私であるが、国会という所は何故か昔から魅力的であった。アメリカ人の父と日本人の母の間に生まれた私は幼い頃からアメリカと日本の架け橋となって社会に役立ちたい、という夢を持っている。国と国が関係する政治に関わる仕事なら可能かも知れないと思い、二ノ湯先生の元でインターンとして働いたのがこの夏である。正直に書くと、最初の数日はとても大変だった。慣れない職場、新しい環境、訪問された方への対応などに慣れずに苦労をしたが、二ノ湯先生、秘書の皆さんが私を暖かく受け入れて下さり、日本の職場文化など細かい事を教えてくださったお陰で、何とか乗り越える事が出来た。京都の為に、日本の為にと毎日励まれる先生の姿をみて、私はなぜ自分が政治の世界で働きたいのかを再実感し、国の為に働く素晴らしさを教えて頂いた。お陰様で私はいろいろな事を勉強し、自分に自信を持つ事が出来、自分の「日本人」としてのアイデンティティを新たに強くする事ができた。インターンを終えて改めて振り返ると、私は政治を少し誤解していたようだ。世の中を動かすのは政治ではなく、未来への希望と期待をもつ国民、そしてその期待に応えようと一生懸命に働くのが政治家、そしてそのスタッフであった。アメリカと日本の関係が不安定に見える中、二ノ湯先生の元で学んだことを日本とアメリカの架け橋として将来役立てるように活かしたい。』

大山崎町山本町長再選出馬表明
自民党府連推薦決定

来る10月16日告示、21日投開票の日程で、大山崎町長選挙が行われる。現職の山本圭一町長は、前回の町長選挙で共産党候補者と激しい選挙を戦い、僅少差で勝利し、初陣を飾った。4年間、新規事業を次々と実行、住民サービスを向上させ、町政発展のために頑張ってきたが、希望と誇りある大山崎町にしたいと意欲を燃やし、再選を目指している。大山崎町は日本一共産党の勢力が強い地域と言われている。定数12人の町議会では共産党が3議席を占め、山本町長は議会対策に頭を悩ませている。今回の町長選挙の対抗馬は保守系の元議長で、共産党の推薦を得て選挙に臨む構えを見せている。非常に厳しい戦いが予想されるため、山本陣営も早くから、背水の陣の体制を敷いている。自民党京都府連としても、絶対に負けることができないと、8月30日に山本町長に対して推薦状を交付した。なお、町長選挙と同時に、町議会議員選挙も行われ、立候補予定者の2名に公認証、2名に推薦状を交付した。

山本大山崎町長に推薦状を交付

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費　1口1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

身辺雑記

一、2才の男の子が行方不明になってしまった。地元の警察、消防団等が2日間に亘って探し回ったが見つからず、九州から駆け付けた78才のボランティアが、現地に到着直後、幼児を発見した。猛暑の中の、さわやかな救出劇であった。

一、最近の高校野球は甲子園に出場することが最優先され、全国から優秀な子供たちを引き抜くことが常習化されている。都道府県の代表である限り、地元と縁のある選手が望ましい。それだけに秋田代表の金足農高の活躍は値打ちがある。

一、身体障害者の雇用問題でまたしても役所の杜撰(ずさん)さが明らかになった。官公庁の最近の不正は目に余るものがある。しっかりしろ、たるんでいるぞと世論は厳しい。それ以上に、政治家もしっかりと監視しなければならない。

一、日本体操協会がパワハラ問題を巡ってもめている。アメフト、ボクシング、今度は体操。選手そっちのけで大人たちが、権力争いをしている。純粋なはずのスポーツ界も中身はドロドロした世界の感じを受ける。

一、アメリカ上院のマケイン議員が亡くなった。5年前、外交委員会の一員として、議事堂の彼の部屋を訪ね懇談した。ベトナム戦争で、5年半の捕虜生活を送った反共主義者ではあるが、偏狭な思想の持ち主ではなかった。

一、国民民主党の代表選が行われた。玉木、津村両氏の対決であったが、玉木氏の勝利に終わった。選挙期間中、マスコミの取り上げは少なく、国民の関心も低かった。野党とは言え、自民党総裁選挙の盛り上がりとは余りにも違い過ぎる。

一、頑健だった父親は、健康に関心を示さず、その過信で63才で脳梗塞で倒れた。最近父親の日記が見つかった。病床で「健康に勝る宝なし」と後悔し、子供達がこの日記を読んで、健康第一の生活を送ってほしいと綴ってあった。

お願いのご挨拶

ご承知の通り来年は統一地方選挙と参議院通常選挙が行われる年です。5年前の参議院選挙で滋賀県選挙区より私の長男武史が、公募によって候補者に選ばれ、立候補致しました。その節は、多くの皆様に暖かいご支援を賜り、幸いに初当選をすることが出来ました。早いもので、来年は改選の時期となりました。8月には自民党本部より、自民党第1次公認候補予定者として決定していただきました。

自民党は今のところ、高い支持率を維持しておりますが、政局次第では、高い支持率も変動するかも知れません。特に、定数1名の選挙区では、与党、野党の一騎打ちの戦いとなる公算が高く、決して予断を許しません。支援の輪を拡げ、今から十分な準備をし、選挙に備える必要があります。本日の「えとす」に二之湯武史の「後援会のしおり」を同封させていただきました。誠に恐縮ですが、今回も滋賀県在住のご縁のある方をご紹介下さいますよう伏してお願い申し上げます。

平成30年9月

参議院議員　**二之湯　智**